第１号様式　別紙１　　（令和 7 年度計画分　事業活動環境計画書）

氏名 （法人にあっては名称）	株式会社　リーガロイヤルホテル広島
住所	広島県広島市中区基町6番78号
計画期間	令和 7 年 4 月 1 日 ～ 令和 10 年 3 月 31 日
基準年度(*1)	令和 6 年度

１　事業者の要件（⑴、⑵については、特定年度(*2)における市内に設置された全ての事業所の合計量）

該当する事業者の要件	☑ ⑴原油換算エネルギー使用量(*3)が1,500キロリットル以上（特定事業者） ☑ ⑵エネルギー起源二酸化炭素を除く物質ごとの温室効果ガス排出量(*4)が3,000トン以上（特定事業者） ☐ ⑶特定事業者以外の事業者

２　事業の概要

事業者の業種	旅館・ホテル （主たる事業の日本標準産業分類における細分類番号： 7511 ）
事業の概要	ホテル・飲食業・宴会

３　温室効果ガスの排出の抑制等に関する推進体制

温室効果ガスの排出については、統轄を担当役員とし、推薦委員を施設課長及び各部署責任者を担当者として、省エネ法の管理基準で定めた組織で取り組み、CO2の抑制に努めます。

４　温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標等

⑴　温室効果ガス排出量の抑制に関する目標

項　　目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	削減量の対基準年度比
	令和 6　年度	令和7～令和9年度 （平均値）	((a-b)/a)×100 (aは基準年度の実排出量)
温室効果ガス実排出量(*5)	8,344　t-CO_2	8,260　t-CO_2	1.0　%
温室効果ガスみなし排出量(*6)		8,260　t-CO_2	1.0　%
目標設定の考え方	目標数値は、省エネ法で定められている、毎年1%の削減数値になっているが、現状のまま宿泊人数や宴会・レストランの利用客数が増加傾向にあり、このまま増加した場合、温室効果ガスの数値が増加するものと思われる。		

*1　基準年度とは、温室効果ｶﾞｽの抑制度合を比較する基準の年度であり、原則として特定年度(*2)とする。なお、基準年度の温室効果ガス実排出量(*5)については、事業活動の著しい変動等により特定年度が基準年度として適当でないときは、事業者の判断により、特定年度を含む連続した過去３か年度の平均値とすることができる。

*2　特定年度とは、計画期間となるべき期間の最初の年度の前年度をいう。

*3　原油換算ｴﾈﾙｷﾞｰ使用量とは、燃料の量並びに他人から供給された熱及び電気の量をそれぞれ発熱量に換算した後、原油の数量に換算した量の合算をいう。

*4　温室効果ｶﾞｽ排出量とは、二酸化炭素（ｴﾈﾙｷﾞｰ起源のもの及び非ｴﾈﾙｷﾞｰ起源のもの）、ﾒﾀﾝ、一酸化二窒素、ﾊｲﾄﾞﾛﾌﾙｵﾛｶｰﾎﾞﾝ、ﾊﾟｰﾌﾙｵﾛｶｰﾎﾞﾝ及び六ふっ化硫黄）の排出量を二酸化炭素の数量に換算したものをいう。

*5　温室効果ｶﾞｽ実排出量とは、上記(*4)のうちｴﾈﾙｷﾞｰ起源二酸化炭素の排出量と、それ以外の物質ごとの温室効果ｶﾞｽ排出量が特定事業者単位で3,000ﾄﾝ以上のものの排出量の合算をいう。

*6　温室効果ｶﾞｽみなし排出量とは、上記(*5)に対して環境価値(*8)に相当する温室効果ガスの削減量等を調整したものをいう。なお、環境価値が活用されないときの温室効果ｶﾞｽみなし排出量は、温室効果ｶﾞｽ実排出量と等しくなる。

⑵　事業分類ごとの原単位(*7)の抑制に関する目標　（※任意記載）

事業分類	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	削減量の対基準年度比
	令和 6　年度	令和7～令和9年度 （平均値）	((a-b)/a)×100
旅館・ホテル	71	70	1.0　%
			%
			%
原単位の指標及び目標設定の考え方	目標数値は、省エネ法で定められている、毎年1%の削減数値になっているが、現状のまま宿泊人数や宴会・レストランの利用客数が増加傾向にあり、このまま増加した場合、温室効果ガスの数値が増加するものと思われる。		

⑶　温室効果ｶﾞｽ実排出量の抑制に関する措置の内容

・ホテル館内の空調設備の各バンパー・室内温度・運転スケジュールなどを細かく調整して、運転監視を行い効率の良い運転を実施。
・照明設備については、引き続きLED器具への更新を進める。
・設備機器の更新については、省エネ機器を積極的に採用する。

⑷　温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の内容（環境価値(*8)の活用等）

特になし

⑸　温室効果ガスの排出の抑制等に関する基本方針

当社では、事業活動に伴う温室効果ガスの排出抑制のため、次の活動に取り組んでいます。
①空調設備の消費エネルギー削減の為、温度調節や、会場の使用前後の運転時間の短縮。
②照明設備のLED化を促進し、省エネ機器を採用して使用エネルギーの削減を図る。
③各部門単位で使用状況を管理し、無駄な使用を抑制して電気・蒸気・冷水・ガスを削減する。
④空調・ポンプなど各設備の更新にあたり、所有者へ省エネ機器の積極的採用を依頼。

５　その他の取組

・各部署ごとに、毎月の使用量を分析、前年度比で増加した部署については、要因を調査して対策を実施。設備などの不備事項があれば、直ちに処置を実施する。

*7　原単位とは、温室効果ｶﾞｽ排出量を生産量、延べ床面積等の当該排出量と密接な関係を持つ値で除したものをいう。
*8　環境価値とは、ｵﾌｾｯﾄｸﾚｼﾞｯﾄ制度等により、温室効果ｶﾞｽの排出削減等を行うﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄを通じて生成される温室効果ｶﾞｽの削減量等をいう。なお、温室効果ｶﾞｽみなし排出量(*6)の調整対象となる環境価値は市内分とし、市長が認めるものに限る。

第１号様式　別紙３　　（令和 7 年度計画分　事業活動環境計画書）

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標等

（※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要）

事業所の名称	株式会社　リーガロイヤルホテル広島
事業所の所在地	広島県広島市中区基町6番78号
事業所の業種	旅館・ホテル
事業の概要	宿泊・宴会・レストラン・ヘルスクラブの営業

１　温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標等

⑴　温室効果ガス排出量の抑制に関する目標

項　　目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	削減量の対基準年度比
	令和 6　年度	令和7～令和9年度 （平均値）	((a-b)/a)×100 （aは基準年度の実排出量）
温室効果ガス 実排出量	8,344　$t\text{-}CO_2$	8,260　$t\text{-}CO_2$	1.0　%
温室効果ガス みなし排出量		8,260　$t\text{-}CO_2$	1.0　%
目標設定の考え方	目標数値は、省エネ法で定められている、毎年1%の削減数値になっているが、現状のまま宿泊人数や宴会・レストランの利用客数が増加傾向にあり、このまま増加した場合、温室効果ガスの数値が増加するものと思われる。		

⑵　温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の内容

・ホテル館内の空調設備の各バンパー・室内温度・運転スケジュールなどを細かく調整して、運転監視を行い効率の良い運転を実施。
・照明設備については、引き続きLED器具への更新を進める。
・設備機器の更新については、省エネ機器を積極的に採用する。

⑶　温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の内容（環境価値の活用等）

特になし。

２　その他の取組

・各部署ごとに、毎月の使用量を分析、前年度比で増加した部署については、要因を調査して対策を実施。設備などの不備事項があれば、直ちに処置を実施する。